

## ◇1997年度浦野環境教育奨励金活動報告

### 校区の自然環境の教材化と実践

—コンピューターを活かして—

堺市立金岡小学校 木村 貴

#### 1. 概要

本校区には、まだ多くの自然が残されている。しかしながら子供たちは、自分たちの身の回りの自然の美しさ、すばらしさ、さらには破壊について、改めて考えたことはほとんどない。そこで、児童はこれまでに、「水溶液の性質」の単元において、水溶液の性質に対する見方や考え方、調べ方を学習し、「人と環境」の単元では、自分達を取り巻く水、空気、食べ物などさまざまな自然環境を学習した。また社会「古代の人々の生活」図工「埴輪作り」で環境学習を軸に、「土器による塩作り」を総合的な学習として実践した。

そこで、本学習では、今までの環境に対する見方、考え方、技能など先行経験をすべて生かして、校区および家庭の水などについてその水質を調べ、そこから得られる豊かな知識や体験から、環境問題の解決のために必要な能力や態度を養うことをねらいとして実践を行った。

#### 2. ねらい

- ・ 自分達の身の回りの水環境に関心を持ち、進んで調べようとする。
- ・ 自分達の身の回りの水環境について調べたことを、記録したり、発表したり、疑問を持ったりすることができる。
- ・ 自分達の身の回りの水環境についての正しい認識をもち、環境に対して自分達ができることを実践しようとする。

#### 3. 研究の仮説

身近な水環境を調べる活動や、そこから得られる豊かな知識や体験を通して、環境問題の解決のために必要な能力や態度を養うことができる。

#### 4. 実践内容

子供たち一人一人に「環境ウォッチング」というワークシートを常時持たせ、放課後、下校してからの時間を中心に、自分たちの身の回り（特に金岡小学校校区）の環境について気づいた事を絵や文で記録していった。そこでは、必要に応じて画像や映像を使用させるなど、できる限り子供たちが興味関心を示すようにした。

本年度は、特に水環境についてクラス全体で活動を続けていった。水環境を調べていく項目としては、色・においなど感覚的なもの、指示薬を使った化学的なもの他、その場所の周辺の生き物（鳥、魚、昆虫…）や社会的環境なども「環境ウォッチング」に記録していった。それらの記録は個人でファイルに綴っていき1ヶ月に一度程度クラス全体で1月分の調べた結果の発表会を行った（ポスターセッション形式・ワークショップ形式・発表会形式…）。

その折、データの記録のためにコンピューターを使ったり、他人にできる限り臨場感を伝えるため、写真（デジタルカメラの画像やスキャナーで取り込んだインスタントカメラの画像）やビデオによる映像を駆使させた。そして、学習の締めくくりとして、継続して調べてきた記録を『金岡小学校区の水環境マップ』としてイラストマップにまとめ、学習を終えた。

#### 5. 考察

本実践を終えて、子供たちは今まで改めて意識することの少なかった自分たちの身の回りの水環境に初めて興味を持ったのではないと思われる。

また、環境マップを有効に活用することによって水以外の環境にも興味・関心をもち調べてみようという意欲を高めてくれたのではないかと考える。

今後も、こういった活動を子供たちに数多く経験させる事でもっと多くの身の回りの環境に目をむけさせていきたいと思っている。